「都市国家と日本の選挙」に関するデスカッションペーパー
その１

光多　長温*

１．表題の「都市国家と日本の選挙」ですが、また、１頁下に「都市国家化した日本」との表現がありますが、都市国家とは、伝統的には「都市が政治的に独立し、自由市民を中心に一つの国家を形成したもの。アテネ・スパルタなど、古代ギリシャのポリスはその代表的なもの。また、ヨーロッパ中世末から近世にかけての自由都市をいう。」（大辞泉）とあります。また、ウィキペディアでは「都市国家（: City-state）は、一つの都市とその周辺地域が、独立した政体や文明として一つとなり、まとまった形態をなす小国家を表す」とあります。これから「都市国家」または「都市国家化」の意味を明確にしていただいた方が良いかと思います。その理由は、選挙制度の問題点が色々言われますが、それが日本の都市国家化が原因とすれば新たな視点かと思うからです。

文中、農村国家と都市国家とを対比して書いておられますが、その意味ではわが国が閉鎖社会的な農村社会から開放的な都市化社会に変化してきたということも考えられます。なお、都市化とは、「産業化による人口の都市への集中、それに伴って都市型生活様式が形成され、その都市周辺や農村へ拡大していくこと。」（大辞泉）とあります。この都市化が日本の選挙、政治にどのような影響を与えたかの論点があればご示唆いただきたい。

２．わが国の選挙の問題、政治不信について大変分かりやすく書いていただいておりますが、選挙・政治不信の構造について具体的に指摘していただければと思います。例えば、次の点です。

(1) 選挙・政治不信は時系列的にはどうでしょうか。｛動都｝でも触れていますが、1990年代からわが国国民の現状不満や国家に対する失望が増加しています。政治不信もこの流れの一貫（社会に対する不満、不信が政治不信につながった）と考えられないでしょうか。もし、そうであれば、（選挙だけの話ではなく）改革の方向も異なってくるのではないかと思います。

(2) 国の衆参議員選挙と地方議会議員、地方の首長選挙とではどう違うのでしょうか。

---

* 公益財団法人都市化研究公室　理事長

特に、国の場合（地方も同じ）は政治資金問題がかなり影響していると思われますし、地方議会の場合は（兵庫県知事問題以前から）身近な生活への不満が議会不信になっているとも思われます。

(3) 地域別・年齢別に政治・選挙不信がどう異なるか分かりませんでしょうか。大都市と地方、東北地方と九州地方等、年齢別に、性別でどうでしょうか。

(4) 政治不信なのか、選挙制度に対する不信なのかいずれば大きいでしょうか。また、裏金疑惑の影響はどうでしょうか。

３．2000年頃に議論された選挙におけるマニフェストはその後どうなっているのでしょうか。結局、日本の選挙制度に馴染まなかったのでしょうか、又は何らかの形で日本に定着しているのでしょうか。ある市の選挙で、新人が当選したら住民に一人5万円を支給すると言って当選して、その後それを撤回したケースがありますが、選挙詐欺ではないかとも思いますが、何か防止するような方法はないでしょうか。

（以上）